

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

デイリー・ジーザス・ニュース #111

4. イエスが5000人に食事を与える（奇跡その19）

MK 6.35-44（並行テキスト：マタイ 14.15-21。ルカ9.12-17。ヨハネ6.3-15）

3それからイエスは山に登り、弟子たちと一緒に座られた。4 ユダヤ教の過越祭が近づいていた。

5 イエスは目を上げて、大勢の群衆が自分の方に来るのを見て、フィリポに言われた。「この人たちに食べさせるパンをどこで買えばよいでしょうか。」

6 彼はただ彼を試すためにそう尋ねたのです。なぜなら彼はすでに何をするか決めていたからです。

7 フィリッポは答えた。「半年以上かかるでしょう それぞれが少しでも食べられるように、パンを買うようにしなさい」（ヨハネ6:3-7）

35 M日も暮れてきたので、弟子たちがイエスのもとにやって来て言った。「ここは人里離れた所ですし、もうすっかり夜も更けています。」36 人々を解散させて、周囲の田舎や村に行つて何か食べるものを買えるようにして下さい。」

37 しかし彼は答えた。MT「彼らは立ち去る必要はありません。M彼らに何か食べ物を与えるように命じます。」

彼らはイエスに言いました。「それは半年分の賃金以上になります。私たちはパンを買うためにそれだけのお金を出して、彼らに食べさせるべきでしょうか。」

38 「パンは何個ありますか？」彼は尋ねた。それからイエスは彼らに命じられました。「行って見なさい。」

Jもう一人の弟子、シモン・ペテロの兄弟アンデレが口を開いた。「ここに、小さな大麦のパン五つと小さな魚二匹を持っている少年がいます。しかし、こんなに大勢の人の中で、それでどれだけ足りるでしょうか。」

は命じられました。「ここへ持って来なさい。」

39それからイエスは、群衆をグループに分け、座らせるように指示されました。Lサイズ約50個ずつ 緑の芝生の上のM。40 そこで彼らは数百人、50人ほどのグループに分かれて座りました。

41 イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで感謝の祈りを唱え、パンを裂き、弟子たちに渡して人々に配らせ、また二匹の魚も皆に分け与えた。42 みんな食べて満足しました。

J皆が十分に食べた後、イエスは弟子たちに命じられました。「残った破片を集めなさい。何も無駄にしないようにしましょう。」

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

1. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

43 M弟子たちはパンの切れ端と魚を十二籠集めました。

44 その男たちの数は、^{MT}は女子供を除いて、食べた^Mは5000人でした。^J人々はイエスが行われた奇跡を見て、「確かにこの人こそ、世に来るべき預言者だ」と言い始めた。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、*イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています*。旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	ベツサイダ近郊
タイムライン	3月下旬/4月上旬 (26ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	1. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波
タイトル	4. イエスが5000人に食事を与える (奇跡その19)

コメント：

これはイエスの19番目の奇跡であり、おそらくイエスの奇跡の中で最も有名なものでしょう。イエスの死と復活を除けば、四福音書全てに記録されている唯一の奇跡です。また、これはイエスの説教全体の基盤にもなっており、これから数日間かけてその説教を取り上げます。この奇跡は、イエスの三度目のガリラヤ巡礼の衝撃的なクライマックスとなりました。

この聖句は、イエスと使徒たちの態度の大きな違いを際立たせています。実際的な観点から、使徒たちは大群衆を解散させ、ベツサイダかカペナウムまで歩いて夕食の食料を手に入れたいと考えていました。一方、イエスは人々がすでに空腹で疲れており、すぐに食事をする必要があることを見抜いていました。また、周囲の町々には、これほどの大群衆を収容するのに十分な食料が備蓄されていないのではないかと懸念していました。そこにいた男性は約5000人だったので、数え切れないほどの女性や子供たちを加えると、その数は少なくとも倍増するでしょう。

使徒たちはガリラヤ巡礼の旅で既に奇跡的な力をもって奉仕していました。イエスは彼らに、与えられた賜物に従って、行って宣べ伝え、癒すように命じていたからです。この状況にも同じ原則が当てはまりましたが、彼らはまだそれに気づいていませんでした。そこでイエスは、これを使徒たちへの教えの機会とみなさ

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

1. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

れました。そして、彼らを試されました。」**彼はすでに何をするつもりかを知っていた。**」（ヨハネ6:6）

イエスは十二使徒に群衆に食事を与えるように命じることによって（マルコ6:37）、彼らにそれを成し遂げる力を与えました。イエスは、不可能を可能にするために、ただ命じられたからこそ、彼らに頼ってほしいと願ったのです。ペテロはこの教訓を部分的に学びました。その夜、ガリラヤ湖で再び嵐に見舞われた時、彼はそれを実践したからです。しかし、ペテロも他の使徒たちも、この奇跡を通してイエスが彼らに教えようとしていたことの真意を完全には理解していませんでした。

この奇跡は四福音書全てに記録されているため、物語を読み進めながら、各筆者の独自の貢献をいくつか指摘していきます。原文はマルコによるものです。他の三人の筆者は、マルコの言葉を忠実に踏襲して福音書を執筆しました。ヨハネだけがマルコの記述に多くの補足を加えました。彼は、イエスがこの奇跡を起こしたのは十二使徒に貴重な教訓を与えるためだったという重要な情報を与えました。

使徒たちに人々に食事を与えるよう命じた後、イエスは次に、彼らに自分たちの持ち物を調べるように言われました。使徒たちは入手可能な食料と所持金を数えましたが、最も重要な持ち物、つまりイエスご自身のことを考慮に入れていなかったのです。誰もイエスに問題を解決してもらえとは思っていませんでした。これが彼らが学ばなかった重大な教訓です。自分自身に十分な持ち物がない時、私たちは神の力に頼り、私たちを通して神の御心を成し遂げるといふ、神から与えられた機会に直面しているのです。これこそがクリスチャン生活の秘訣です。

マタイはマルコの記述に短いフレーズをいくつか付け加えただけですが、そのうちの一つがこの教訓にとって極めて重要でした。彼はイエスの命令を引用しました。「**それら（五つの大麦のパンと二匹の小さな魚）を私のところに持って来なさい。**」イエスのあらゆる命令に従う秘訣は、私たちが持つすべてのものをイエスに差し出すことです。そうすれば、イエスは御心のままに力と祝福を与えてくださいます。これが十二使徒へのイエスの教えであり、私たちへの永遠の教えでもあります。

四福音書すべてにおいて、イエスはパンと魚を裂く前に感謝の祈りを捧げたと記されています。ヨハネはイエスの感謝の祈り方に深く感銘を受けました。彼は6章23節で、この出来事についてこう記しています。

「それから、ティベリアアから来た小舟が、主が感謝の祈りを捧げられた後、人々がパンを食べた場所の近くに着いた。」

ヨハネにとって、イエスが感謝をささげたことは、単に食事の前に祈りをささげる以上の意味を持っていました。ヨハネは、イエスが使徒たちに自分たちの力でできることを調べるように頼む前に、自分が何をするか、つまり奇跡をすでに知っていたことに気づいていました。つまり、イエスは父が祈りに答えてくださると信じ、信仰によってパンを裂いたのです。イエスは、これから起こる奇跡に対して、信仰によって前もって感謝をささげたのです。

主はラザロを死から蘇らせた時も同じことをなさいました。（ヨハネ11:41-42）どちらの場合も、イエスは事前に状況について祈り、実際の奇跡に先立って父なる神から答えを受け取っておられました。以前の祈りによって、イエスの心の中では既に決まっていたのです。ですから、イエスは既に来ると分かっていた答え

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

に感謝をささげたのです。これは信仰の力強い例であり、イエスが弟子たちに求めていたものだったのです。

応用：

イエスは後に祈りについてこう語っています。「**あなたがたに言う。祈り求めるものは、すでに与えられたと信じなさい。そうすれば、そのようになる。**」マルコ11章24節。イエスは説教したことを実践されました。ですから、大きな奇跡が起こる前に感謝をささげました。なぜなら、自分が求めたものは既に与えられたと信じていたからです。奇跡19は、イエスの生涯から生まれたこの原則の素晴らしい例であり、私たち一人ひとりに直接当てはまります。

あなたは今、神に何を祈り求めていますか？神は御言葉の中でそれを命じていますか？そうであれば、それがあなたに対する神の御心だと分かります。

神の答えはすでにあなたに与えられていると信じているのに、今日あなたは神に何に対して感謝する必要がありますか？